

2022年3月期 決算説明会

～2021年度の振り返りと今後について～

【目次】

- 1. 2021年度決算説明**
- 2. 2025中期経営計画の進捗**
- 3. ESGの取り組み**
- 4. 2022年度業績予想**

1.2021年度 決算説明 決算総括

原材料価格高騰などの損益悪化影響があったものの

前期比

増収増益

、営業利益以下の各利益区分で

過去最高益

プラス要因

- コロナ禍の低迷から**需要が回復**
- 半導体検査装置市場で**需要が増加**
- 電動車移行の加速により車載関連製品の**需要が増加**
- 銅地金価格上昇部分の**価格転嫁が進展**
- 操業度上昇による**生産効率向上で原価が低減**

マイナス要因

- 銅地金価格の高騰、高止まりによる**原料コストの増加**
- コンパウンドなど原材料価格や物流費の**上昇**
- 半導体不足による自動車の**生産調整**
- コロナ変異株により事業活動が**低滞**

1.2021年度 決算説明 業績

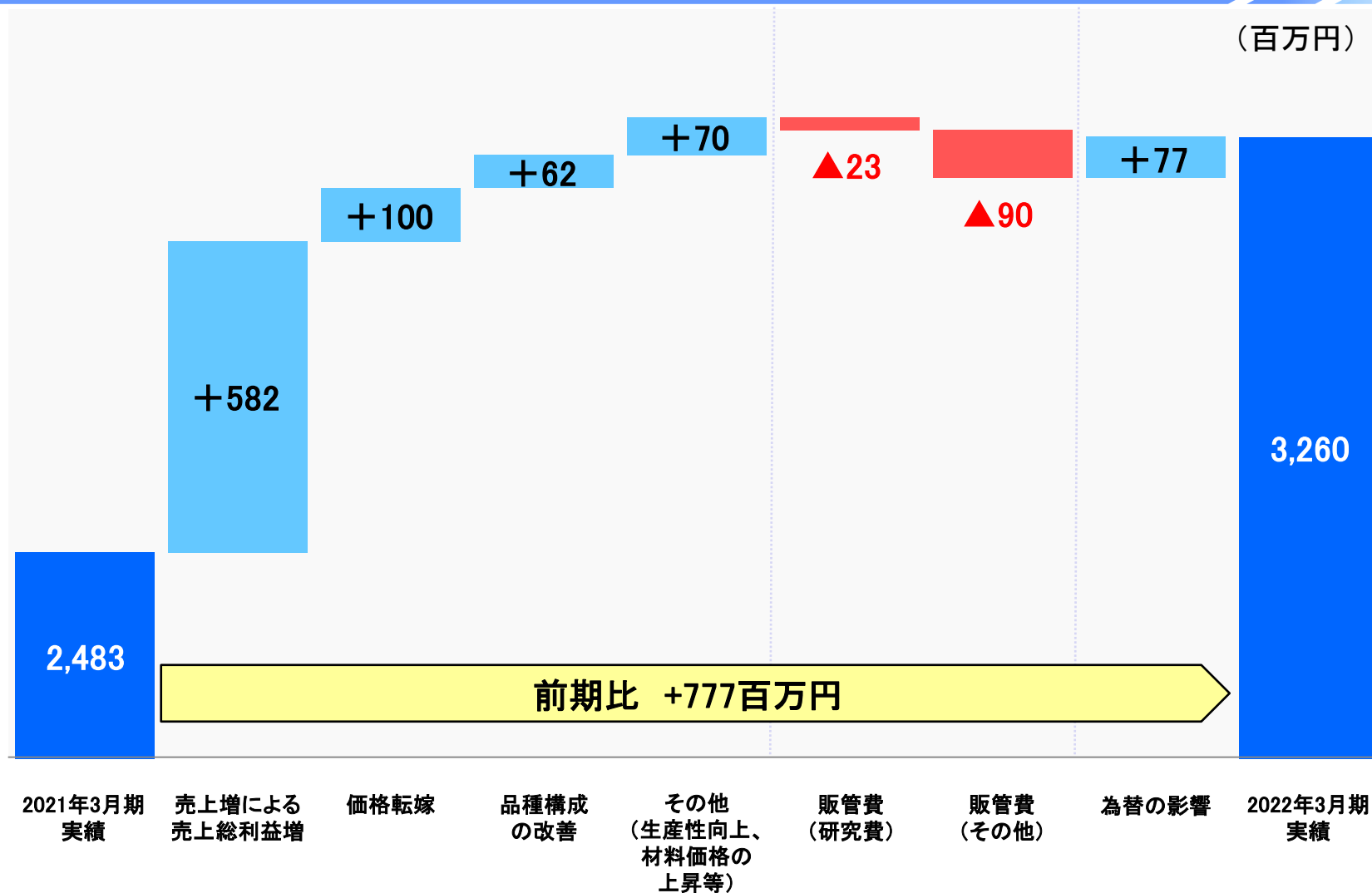
()は前期比

(百万円)	2021年3月期 (実績)	2022年3月期 (実績)	前期比
売上高	17,297	20,921	3,624 (+21.0%)
営業利益	2,483	3,260	777 (+31.3%)
営業利益率	14.4%	15.6%	+1.2P
経常利益	2,538	3,306	768 (+30.3%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,801	2,335	534 (+29.6%)

- 売上高、営業利益以下全ての利益区分で前期比**増収増益**
- 自己資本利益率: ROE**13.8%** (前期12.3%)

1. 2021年度 決算説明

営業利益 変動要因



車載関連製品の売上増加により営業利益は大幅増

1.2021年度 決算説明 分野別概況

()は前期比

電線・ヒータ分野

売上高

128.9 億円

(+24.2億円 / +23.2%)

営業利益

20.5 億円

(+7.2億円 / +53.9%)

- シート用ヒータ線: コロナ後に**大幅回復**
- 三層絶縁電線: サーバー向けで**増加**
- 高耐圧複合電線: 車載インバータ向けで**増加**
- その他のヒータ線: 中国子会社で**回復**

デバイス分野

売上高

79.4 億円

(+12.4億円 / +18.5%)

営業利益

13.6 億円

(+0.7億円 / +5.3%)

- コンタクトプローブ: 半導体需要の**拡大**
- フレキシブルフラットケーブル: プリンター向けで**増加**
- 焼付線: コロナ後に中国子会社で**回復**
- サスペンションワイヤ: スマホカメラ向け**需要減**

1.2021年度 決算説明 財務状況

()は前期末比

2022年3月31日(百万円)	
流動資産	負債
17,534 (+1,543)	9,313 (▲482)
現金及び預金 10,597(+754)	流動負債 5,821(▲356)
売掛債権 4,438(+338)	固定負債 3,492(▲126)
棚卸資産 2,345(+594)	有利子負債残高 2,326(▲33)
その他 151(▲144)	純資産
固定資産	18,423 (+2,325)
10,202 (+300)	株主資本 17,381(+2,155)
有形・無形固定資産 8,027(+563)	その他の包括利益 853(+368)
投資その他資産 2,174(▲263)	非支配株主持分 188(▲199)
	自己資本比率 65.7%(+5P)
資産合計 27,737(+1,842)	負債純資産合計 27,737(+1,842)
Net Cash 8,270(+787)	

自己資本比率は65.7% 5ポイント増

1. 2021年度 決算説明 利益還元

✓ 期末配当は**50円/株に増配**（第104期定時株主総会の決議をもって決定）

配当金 (円/株)	中間配当	期末配当	合計	総額 (百万円)	配当性向 (%)
2021年3月期 (実績)	30.0	30.0	60.0	404	22.4
2022年3月期 (実績・予定)	実績 30.0	予定 50.0	80.0	539	23.1

■ 基本方針

業績に連動しつつ安定的な配当を実現していく

1. 2021年度決算説明
- 2. 2025中期経営計画の進捗**
3. ESGの取り組み
4. 2022年度業績予想

2.2025中期経営計画 進捗状況

2021年度は、2025中期経営計画達成に向け堅調な1年

収益

- ✓ 1年目は好スタート
 - ・過去最高益
 - ・事業環境、市場動向に注視

設備投資

- ✓ 市場拡大・需要増加への対応
 - ・旺盛な需要への生産増強の前倒し
 - ・部品調達難を見越した投資計画



上田事業所 新工場稼働

研究開発

- ✓ 新機能開発と新市場の探索
 - ・新製品比率30%
 - ・VOCに基づいた開発テーマの設定

サステナビリティ

- ✓ 方針、計画に沿ったESG関連の諸施策を実行
 - ・再生可能エネルギーの使用促進
 - ・地域社会への寄付、貢献活動
 - ・改訂CGコードへの対応
(指名・報酬委員会設置 株式報酬制度導入 など)

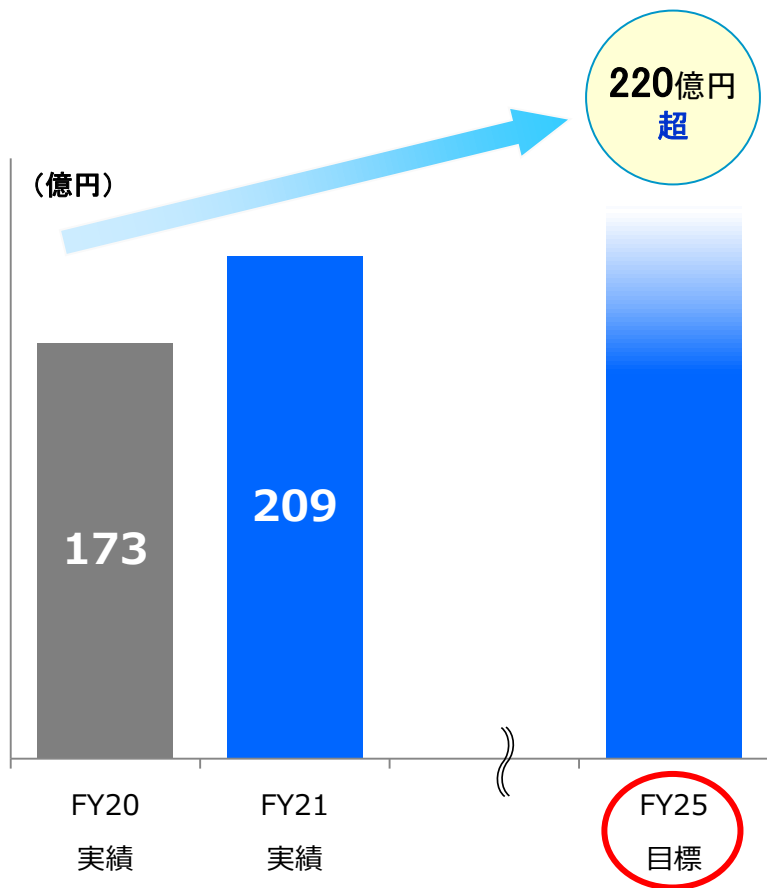
株主還元

- ✓ 還元策の強化を検討
 - ・年間配当 60円/株 ⇒ 80円/株
 - ・株主優待の廃止

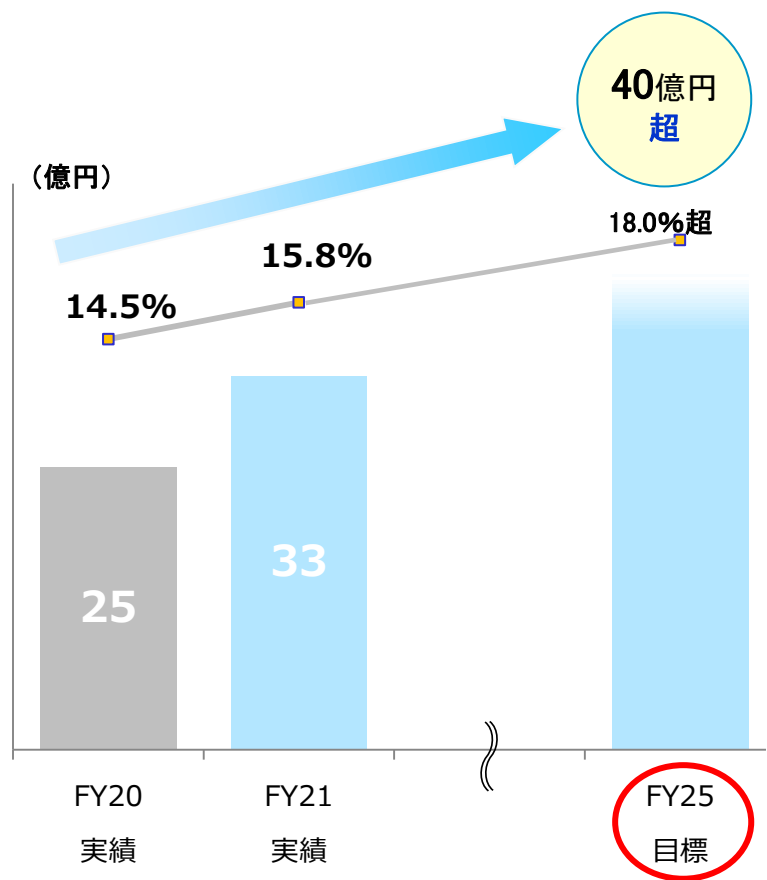
2.2025中期経営計画

数値目標

連結売上高



連結営業利益・利益率



2025年度に向けて着実に利益を伸ばす

◆ 環境変化とその対応

環境変化

- 銅・原油・原材料 価格上昇

国内銅建値
1,300円超 / kg

ナフサ
6万円超 / kl

- 通信インフラにおける高周波帯域市場の需要待ち
- 半導体など部材供給不足により車載関連の受注は先送り

対応

- 原材料価格上昇は販売価格に転嫁中
- 5G基地局向け高性能同軸ケーブルは販売計画を下方修正
- シートヒータ線の受注回復を
2023年以降と見込み増産投資は継続

2.2025中期経営計画

注力市場1

通信インフラ



市場動向

通信ネットワーク拡大、5G浸透

事業環境

- 通信インフラにおける高周波帯域市場が足元は小さい
- サーバー、データセンターの需要は堅調



高性能同軸ケーブル

販売計画 引き下げ

売上減少分は他市場への販売増加で補い、中期目標を達成させる

三層絶縁電線

高効率・省エネ要求



撚線タイプなど
多様化ニーズへ対応

2.2025中期経営計画

注力市場2

モビリティ

市場動向

xEV需要増加、車載高速通信需要拡大



事業環境

- 半導体など部材供給不足から一時的に生産減少
- シート用ヒータ線は2022年上期停滞、2023年以降回復見込
- 高耐圧複合電線の需要は増加



シート用ヒータ線

高耐圧複合電線

生産体制

投資前倒しを含め
増産体制を準備

三層絶縁電線

新規



TOTOKUTIW

xEV需要増加

車載用途向けに
新製品を提案中

2.2025中期経営計画

注力市場3

小型トランス



市場動向

市場規模は緩やかに成長
半導体の高周波化 高効率 省エネ要求



事業環境

- 上海ロックダウンの影響により一部で受注減少
- 銅価格の高止まりにより利益を圧迫

三層絶縁電線



販売価格見直し

高効率・省エネ要求

価格転嫁を
強力に推進中

多本撚り三層絶縁電線
を開発



開発品
420本撚り線

従来品
133本撚り線

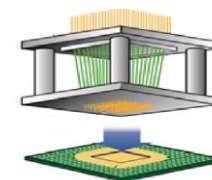
2.2025中期経営計画

注力市場4

基板・半導体検査装置

市場動向

半導体の需要増加に伴い検査装置市場も拡大



事業環境

- 好調な半導体需要によりコンタクトプローブの需要は拡大
- 半導体の小型化、高集積化を背景に細径コンタクトプローブの需要が増加
- 装置配線材として高性能同軸ケーブルの需要増加



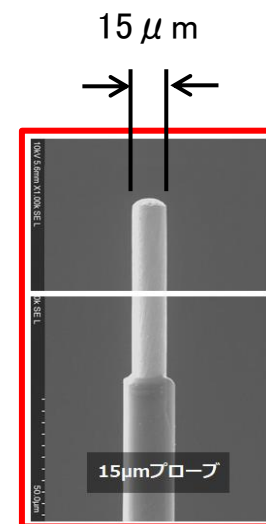
コンタクトプローブ

生産体制

小型化・高集積化

自動化による
品質・生産性の向上
増産投資

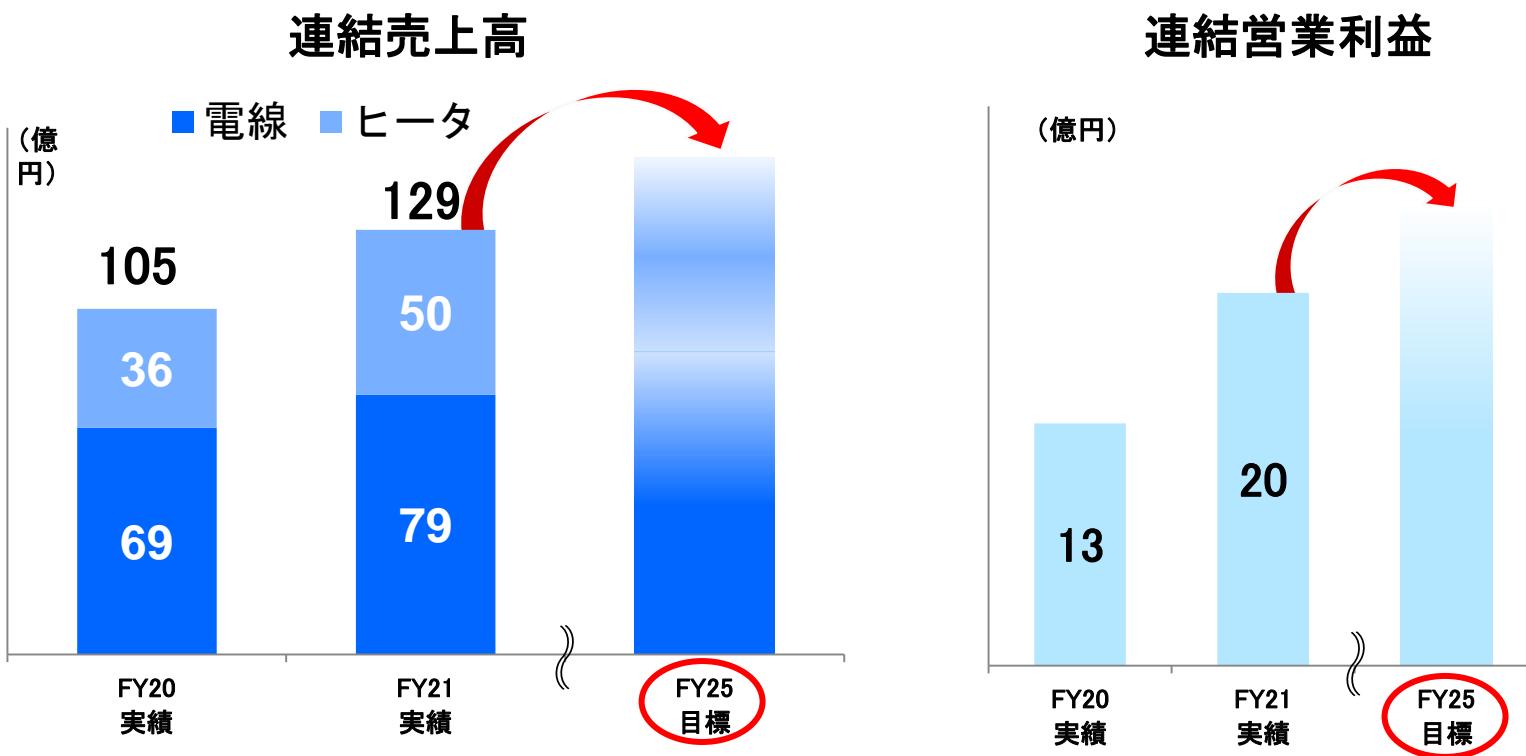
15 μ m の極細径
コンタクトプローブを
開発



2.2025中期経営計画

数値目標（分野別）

◆電線・ヒータ分野



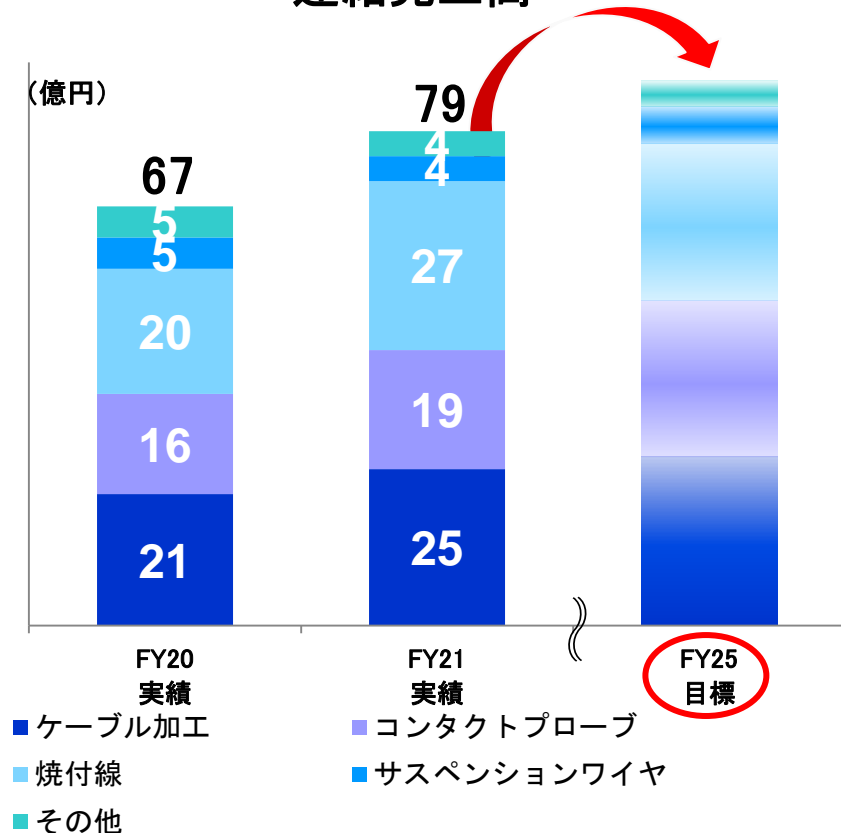
- ヒータ分野の売上が前年比36%増
- 車載向け製品を軸に収益を伸長

2.2025中期経営計画

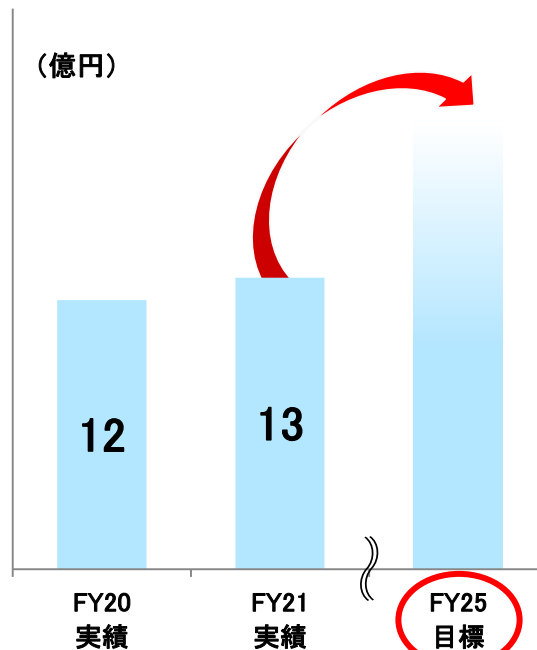
数値目標（分野別）

◆ デバイス分野

連結売上高



連結営業利益

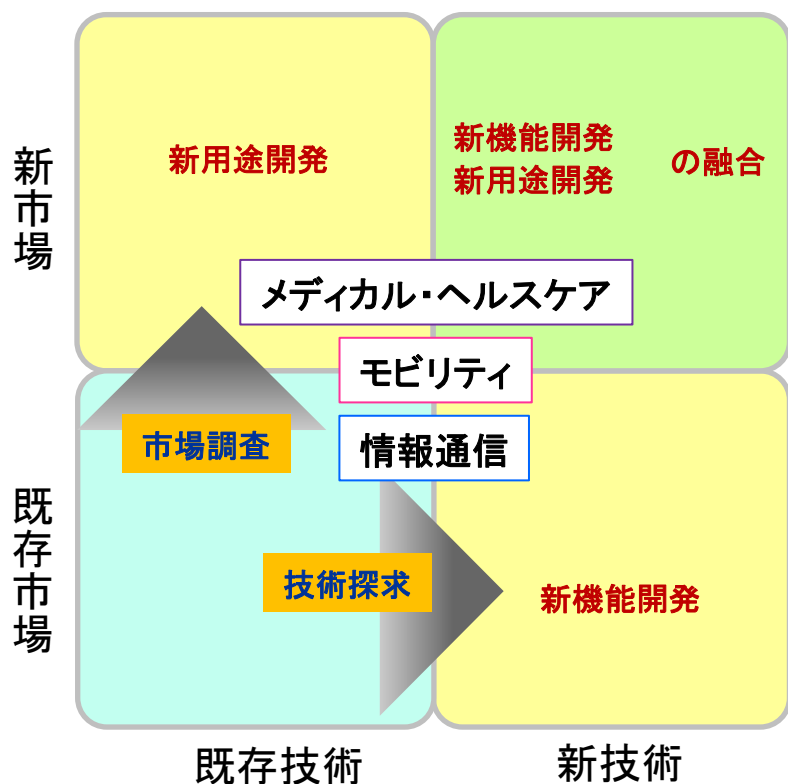


- 半導体検査装置向け製品を軸に収益を伸長
- 焼付線は0.1ミリ以下の細線に注力

2.2025中期経営計画

研究開発

- 研究開発費 14億円 (FY21-FY25)
- 2021年度 2.7 億円



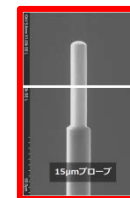
- 既存市場での新機能開発

- 低損失三層絶縁電線
- 車載シートヒータ用新規ヒータ線
- 極細径コンタクトプローブ



- 新機能・新用途開発

- 高感度温度センサデバイス
- サスペンションワイヤ応用製品
- 車載モータ用ワイヤ
- 耐熱フレキシブルフラットケーブル



- 環境に配慮したテーマの追加

- 環境対応型被覆材料

2.2025中期経営計画

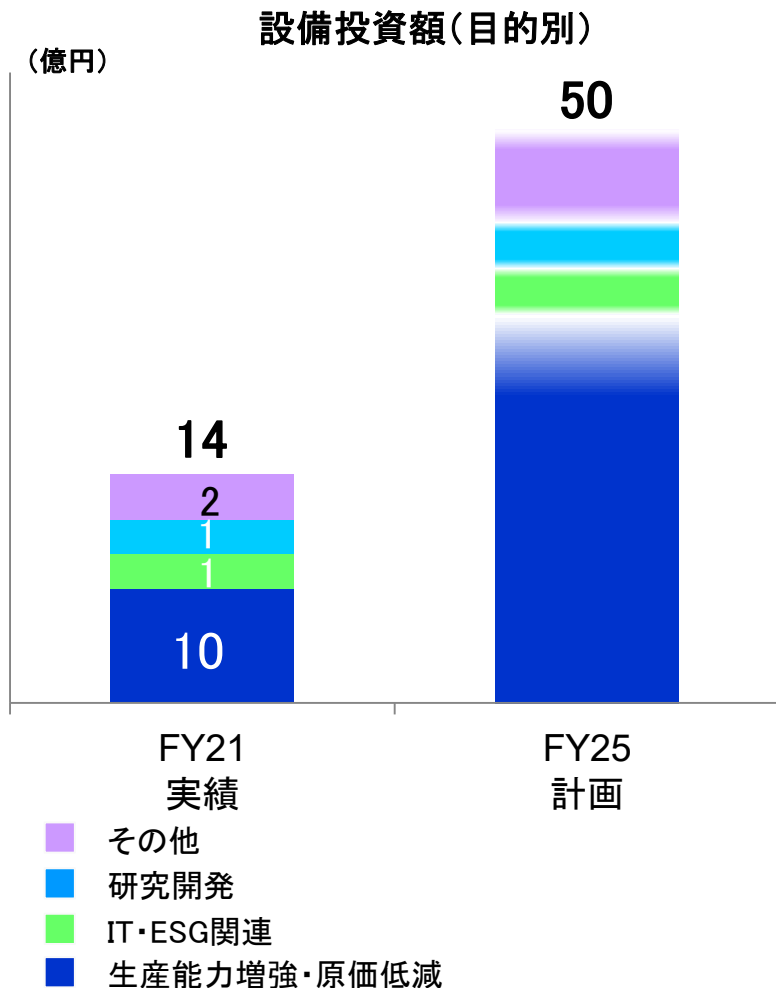
設備投資

■ 2025中期経営計画

投資総額 50億円 (FY21~FY25)

■ 2021年度

投資額 14億円



■ 市場拡大・需要増加への対応

・シートヒータ線 ▶ 車載向け需要増から投資前倒し

・高耐圧複合電線

・コンタクトプローブ ▶ 半導体検査装置市場拡大需要に対応

・高性能同軸ケーブル

■ 生産性向上・合理化

・更新設備の能力UP ▶ 原価低減投資を継続実施

■ IT・ESG関連

・基幹システム刷新 ▶ 中期的に計画実施

・太陽光発電装置増設

1. 2021年度決算説明
2. 2025中期経営計画の進捗
- 3. ESGの取り組み**
4. 2022年度業績予想

3. ESGの取り組み

2021年度

2022年度計画

E

- ◆ 太陽光発電装置(第2期)
- ◆ CO2フリー電力の導入
 - ✓ 導入初年度は比率1%

- ◆ 太陽光発電装置(第3期)
- ◆ CO2フリー電力
 - ✓ 比率を20%へ増加

S

- ◆ 人材育成・活用
 - ✓ 階層別教育、高年齢層の活用
- ◆ 自然環境・地域社会との関わり
 - ✓ 清掃活動、マスク寄贈など

- ◆ 人材活用・教育プログラム推進
 - ✓ 人材再開発・再教育
 - 新たな技能・知識の習得
 - ✓ 女性活躍の推進
 - 女性の採用比率向上、管理職登用

G

- ◆ 指名・報酬委員会設置
- ◆ 譲渡制限付株式報酬制度導入
- ◆ 改訂CGコードへの対応

- ◆ 改訂CGコードへの対応
 - ✓ 議決権電子行使
 - プラットフォーム導入
 - ✓ 取締役会の多様性確保



1. 2021年度決算説明
2. 2025中期経営計画の進捗
3. ESGの取り組み
- 4. 2022年度業績予想**

4.2022年度 業績予想

事業環境の見通し

■ 外的要因

部材価格(銅地金、原材料)

高止まり or 上昇

ウクライナ情勢による事業への影響

具体的な影響は見込まず

新型コロナウイルスの影響

移動制限などが緩和し需給は回復へ

ESG経営、サステナビリティ

取組強化、推進の要求が強くなる

■ 注力市場の見通し

車載向け製品の受注

下期以降回復基調へ

半導体関連製品の受注

堅調を見込む

■ 当社グループの取り組み

- ✓ 顧客のニーズに応えるための生産体制の強化
- ✓ 適正価格への交渉継続
- ✓ 差別化製品へのシフト
- ✓ ESG課題への取り組み
- ✓ 株主への利益還元強化

4.2022年度 業績予想

(百万円)	2022年3月期 (実績)	2023年3月期 (予想)	前期比
売上高	20,921	21,500	579 (+2.8%)
営業利益	3,260	3,200	▲60 (▲1.9%)
営業利益率	15.6%	14.9%	▲0.7P
経常利益	3,306	3,150	▲156 (▲4.7%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,355	2,120	▲215 (▲9.2%)

配当金(円/株)	2021年3月期 (実績)	2022年3月期 (実績)	2023年3月期 (予想)
中間配当	30.0	30.0	50.0
期末配当	30.0	50.0	50.0
合計	60.0	80.0	100.0
総額 (百万円)	404	539	674
配当性向 (%)	22.4	23.1	31.8

- 銅地金高止まり、原材料高騰などリスクを見込み、増収、減益
- 配当は年間100円/株に増配

4.2022年度 業績予想 分野別

()は前期比

電線・ヒータ分野

売上高

136.5 億円

(+7.5億円 / +5.9%)

営業利益

19.2 億円

(▲1.2億円 / ▲6.4%)

デバイス分野

売上高

77.6 億円

(▲1.8億円 / ▲2.3%)

営業利益

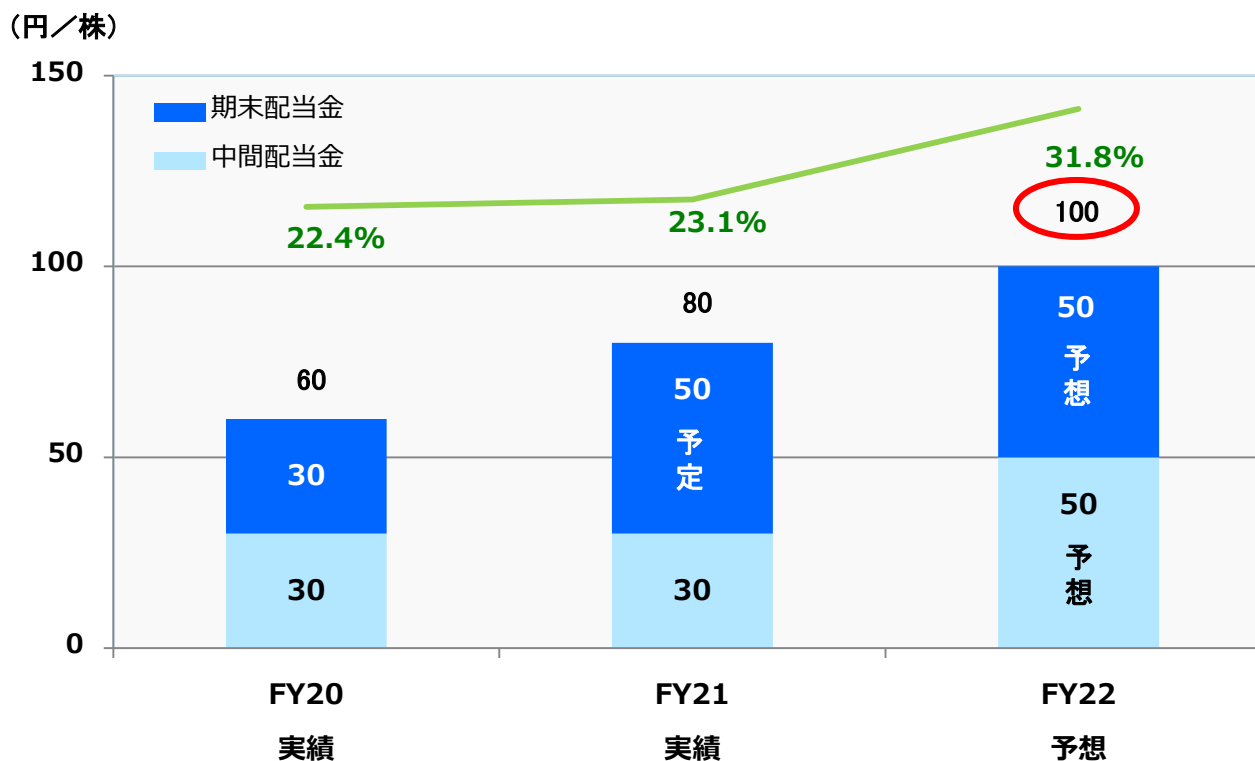
13.9 億円

(+0.2億円 / +1.8%)

- シート用ヒータ線: 下期から回復基調
- 三層絶縁電線: 銅価格高止まりが損益圧迫
- 高耐圧複合電線: 車載インバータ向けで増加
- コンタクトプローブ: 半導体需要の拡大継続
- フレキシブルフラットケーブル: プリンター向け減少
- 焼付線: 中国ゼロコロナ政策の影響で減少

4.2022年度 業績予想

配当施策と配当推移



利益還元を最重要施策の一つと考え
業績に連動した安定的、継続的な配当を実施

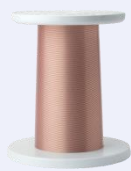
APPENDIX

TOTOKUの主要製品

電線・ヒータ分野

三層絶縁電線

TOTOKUTIW



- 三層テープ巻きタイプ
- 三層フッ素押し出しタイプ
- 低損失タイプ

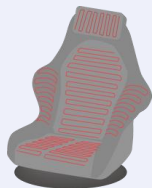
高性能同軸ケーブル

RUOTA



- 高性能同軸ケーブル
- USB3.1TypeCケーブル
- 差動信号伝送ケーブル
- 高性能同軸フラットケーブル

ヒータ線



- シート用ヒータ線

ヒータ加工品



- 水道凍結防止用ヒータ
- ヒータ加工品

デバイス分野

サスペンションワイヤ

Whiscut



- 導体:
ベリリウムフリー合金、
ベリリウム銅、りん青銅
- 表面処理:
金、銀、錫ほか

コンタクトプローブ



- 表面処理:
ニッケル・金
- 絶縁体:
ポリエステル

マイクロウェーブ用 同軸ケーブル

アセンブリ
Wavemolle



- マイクロウェーブ用
同軸ケーブルアセンブリ
- 狭ピッチ多極同軸コネクタ
&ケーブルアセンブリ

フレキシブル フラット ケーブル



- 高速伝送用フレキシブル
フラットケーブル
- 高耐熱フレキシブル
フラットケーブル
- 表面処理: 金、錫

2021年度 損益計算書

(百万円、%)	FY20.4Q	FY21.4Q	増減	増減率
売上高	17,297	20,921	+3,624	+21.0
売上原価	12,481	15,139	+2,658	+21.3
(率)	72.2	72.4	+0.2	—
売上総利益	4,816	5,781	+965	+20.0
販売費及び一般管理費	2,332	2,520	+188	+8.1
営業利益	2,483	3,260	+777	+31.3
(率)	14.4	15.6	+1.2	—
経常利益	2,538	3,306	+768	+30.3
税金等調整前当期純利益	2,542	3,252	+710	+27.9
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,801	2,335	+534	+29.6

2021年度 貸借対照表

(百万円、%)	FY20	FY21	増減	増減率
流動資産	15,991	17,534	+1,543	+9.6
現金及び預金	9,843	10,597	+754	+7.7
その他	6,148	6,936	+788	+12.8
固定資産	9,902	10,202	+300	+3.0
有形・無形固定資産	7,465	8,028	+562	+7.5
投資その他の資産	2,437	2,174	▲262	▲10.8
資産合計	25,894	27,737	+1,842	+7.1
流動負債	6,177	5,821	▲356	▲5.8
固定負債	3,618	3,492	▲126	▲3.5
負債合計	9,795	9,313	▲482	▲4.9
(うち、有利子負債)	2,359	2,326	▲33	▲1.4
株主資本	15,226	17,381	+2,155	+14.2
その他	872	1,041	+169	+19.4
純資産合計	16,098	18,423	+2,325	+14.4
負債純資産合計	25,894	27,737	+1,843	+7.1
自己資本比率	60.7	65.7	+5.0	—
Net Cash	7,483	8,270	+787	+10.5

1.2021年度 キャッシュ・フロー

(百万円)	2021年3月期	2022年3月期	前期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,888	3,396	+508
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,166	▲2,293	▲1,127
有形固定資産の取得による支出	▲1,132	▲2,267	▲1,135
フリーキャッシュフロー	1,722	1,103	▲619
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲385	▲575	▲190
借入金の純増減額	19	▲136	▲155
配当金支払額	▲403	▲404	▲1
現金及び現金同等物の期首残高	8,258	9,598	+1,340
現金及び現金同等物の期末残高	9,598	10,336	+738

※貸借対照表との差額は預入期間が3ヵ月を超える定期預金

TOTOKU

東京特殊電線株式会社

■ 注意事項

本資料は、2021年度の決算と、2025年度までの当社の経営計画をまとめたものです。

本資料上の売上・利益等は直近で当社が入手し得る情報に基づき策定したものであり、将来の事業環境の変化等により変わることがあります。